



## 食糧問題と砂漠開発

比嘉照夫

「紀元2,000年の地球」を考えると云う報道特集の中で今後の20年間で人口は60億に増加すること、農地開発や木材需要による森林の急激な減少とそれにとまなう自然界の緩衝能力の低下は水資源の枯渇はもとより砂漠化の引き金となっていること、そのため、乾燥地域が拡大し土壌の塩類が集積しアルカリ化が進み砂漠となる地域が激増していることなどが報ぜられ、現存する最高の生産技術で対応してもその問題の解決は極めて困難である云う米国政府の調査結果が示された。

これに対する日本の若手研究者の論議は降雨地域における対応策は極めて具体的で実現性のあるものと思われたが、砂漠に対する考え方は将来可能であるとは云え具体性に欠けるもので、はなはだ細かいものであった。紀元2,000年までにあと20年、40～45才以下の人は未だ現役であり、60才の人でも大半はその時を確認し得る状況にある。饑餓の時代の到来は間近に迫っていることは疑う余地のないものであるが、はたして人類はこの問題を解決し得るであろうか。

取鳥大学を中心に研究が行なわれたキューートの砂漠開発試験場は10年経過した今日、しかるべき実験を終了し閉鎖することが報ぜられ、アリゾナ大学の水耕システムをはじめとする多数の試みが中座した形となっている。食糧問題の解決は国際的規模の人口抑制と降雨地域における徹底した基盤整備および生産環境の安定化と情報化による生産性の向上が上げられるが、現存する農地を上まわる平坦砂漠の開発は人類の食糧問題の根本をなすものである。はたして砂漠を化石燃料にたよらない永続性のある農地にすることが可能であろうか。従来技術の水準やその延長線上における答は否である。世界の砂漠の大半は亜熱帯を中心に熱帯の北部と温帯の南部に存在しており、太陽エネルギーと云う立場から見れば農業生産にとって極めて有望な地域である。砂漠開発の最大のネックは水資源の確保と土壌の塩類集積による強アルカリ化である。海水の淡水化が化石燃料に頼らず低コストに大量に確保されるならばかなりの問題が解決されるが、より効果的な成果を上げるためには塩類集積の起り易い現農法を根本的に改める必要がある。

筆者の専門は園芸学でありその中でも果樹園芸学が研究の中心を占めるが、栽培実験の再現性の向上を図ることと沖縄の劣悪な土壌改良、特に施設園芸の土壌の改良のため、砂栽培の研究に着手したのは16年も前のことである。沖縄の海砂は貝ガラやサンゴ石灰岩に由来するためPHが9～9.5と強アルカリの上に石灰を中心とした成分要素の偏がひどく栽培々地としては最悪のものである。そのよう

な強アルカリの海砂でも、湿度を安定させ、有機物含量を2%以上にすれば、かなり良好な培地として利用できることが明らかとなってきた。砂栽培の砂漠への応用は発案者の福島栄二教授（九大・琉大の教授を経て昭和50年退官）の強い希望であったが在任中には適応できずその任は筆者に受け継げる形となり、昭和51年からその問題に取り組んでいる。

米国をはじめ中南米、中東の砂漠の実態が確認されるにつれて、アルカリ化対策にはかなりの自信が持てるようになったが、水の確保についてはお手上げの状態であった。昭和54年、太陽熱で海水を蒸発させ淡水化するとともに温度制御が可能な栽培用ガラス室と地下蒸発によって栽培に必要な水分を確保し得る新しいベッド方式を考案し砂栽培のソーラーカルチャーシステムを発表した。本システムは海水はもとより、重金属を含む水、砂でろ過した下水など、蒸発に際し有害なガスの発生のないあらゆる水を栽培に利用することができ、塩類も無理なく除去でき、動力源も太陽エネルギーの活用のみで間に合う点が大きな特徴となっている。現在は実用化の第一段階に過ぎないが、これまでの予備試験の結果は、単に施設栽培にとどまらず、広く一般の普通作物まで適応できる見通しが立てられている。

サウジアラビア、オーストラリア、アラブ首長国連邦、アルジェリア等で実施の要請があり今年より具体的に着手する予定である。それらの成果は千変万化の粗い沖縄の自然でいかに安定した農業を行なうかと云う課題の中から派生したものであり、自然の法則をいかに上手に使うかと云う命題の中から生まれてきたものである。

海水が蒸発し雲になって雨を降らせることは自然における大原則の一つである。その原則をガラスやビニール、蒸着アルミなど極くありふれた材料でもって屋根と地面に再現したもので最もシンプルな形となっており、例えて云えば「コロンブスのタマゴ」である。

時代の進歩と材料革命は奇想天外なことを現実化ならしめる段階へ入っているのに対し発想の遅れが目立っている。いずれにせよこのような時代に工業や軍備に取り組んだ陣容と予算をもってすれば、不毛な砂漠を手もなくひねるであろうことは間違いない事実である。楽観は許されない現実の厳しさを認識しつつも、技術の進歩は砂漠をして人類の重要な資産に変えることは困難な問題ではなく、ただ時間の問題であると考えている

（農学部園芸学助教授）

## ブラウジングコーナー

### サクガームイ（佐久川 池）

前島町1丁目（メージマ）と2丁目（カニク：兼久）とを結ぶ小さい道がカタバル（塩田）を横切っていた。満潮時には道の高さすれすれまで潮が満ち、時によるとあふれる程になることもあったという。この道は通称ミーミチグワ（新道小）といい、この周辺は、カタバルを埋立ててできた屋敷が多かった。ミーミチグワの北側にサクガームイという池があって、干潮の時に製塩業者が潮を吸む池であった。昭和14、5年頃から製塩業はすたれ、殆んど塩をつくらなくなっていた。

昭和15年頃、当間某氏が、このサクガームイの周辺を埋めたてて、サクガームイは屋敷内の池となった。昭和19年の10、10空襲の際に爆弾がこのクムイに落ちていたが、不発であった。時が移り、30年後の今日では、ミーミチグワもサクガームイも何処が何処やら解らなくなってしまった。昭和48年11月26日、国道58号線（旧1号線）沿いのビル工事現場で地面の大陥没事故が発生した。それから一月程してから知人の結婚披露宴の席で、泊に住んでいる友人と話しているうちに、例の大陥没事故に話が及んだ。そこで解ったことだが、昔のミーミチグワのそばにあったサクガームイが大陥没事故の中心地であるということであった。子どもの頃サクガームイで泳いだこともあったのだが、30年後の今日、そのサクガームイが大陥没の中心地になろうとは夢想だにしなかった。

（参考調査係 山田 勉）

# 「沖繩研究史」書誌稿(3)

—民俗・民族編—

新城 安善

はじめに

本稿は、前回に続いて〈民俗・民族学〉領域の研究史を収録したものである。(1979年12月末現在)

—————\*—————\*—————

**沖繩と民俗学** (大間知篤三)

〔月刊琉球〕2巻1号(1938)

**日本民俗学と沖繩研究** (大藤時彦)

〔民族学研究〕15巻2号(1950) → 〔沖繩文化論叢〕3巻 民俗編II (馬淵東一 小川 徹編) (1974)

平凡社刊

**沖繩民俗の現情** (桜田勝徳)

〔民間伝承〕16巻2号(1952)

**沖繩研究における民俗学と民族学** (馬淵東一)

〔民間伝承〕16巻3号(1952) → 〔沖繩文化論叢〕3巻 民俗編II (馬淵東一 小川 徹編) (1974)

平凡社刊 → 〔馬淵東一著作集〕1巻(1974) 社会思想社刊

**Recent Anthropological Research in the Ryukyu Island** (Smith, Allen H.)

〔Clearing House Bulletin (Human Organization) Vol. 2 No. 1~4 (1953)

**沖繩民俗研究** (比嘉春潮)

〔日本民俗学大系〕11巻(1958) 平凡社刊 → 〔比嘉春潮全集〕3巻(1971) 沖繩タイムス社刊

**沖繩民俗学に寄与した人々** (仲原善忠 比嘉春潮)

〔日本民俗学大系〕12巻(1959) 平凡社刊 → 〔琉球新報〕(夕刊) 1959年6月21日~26日

**座談会 岩崎卓爾翁を語る** (東恩納寛悳 田辺尚雄 神山政良 神山とし子 石垣孫保 石垣当秀 山里永吉 南風原英佳 岩崎英勇 菊地南海子)

〔琉球新報〕1961年11月21日~24日

**戦後の沖繩現地調査一覧** (宮良高弘)

〔民俗学研究〕27巻1号(1962)

**第二次世界大戦後の米国人類学者による琉球研究** (Maretzki, Thomas, W.)

〔民族学研究〕27巻1号(1962)

**柳田先生と沖繩研究** (大藤時彦)

〔民俗〕5号(琉球大学民俗研究クラブ) 1962

**日本民俗学における沖繩研究史—とくに柳田国男の位置づけと展望** (大藤時彦)

〔沖繩の社会と宗教〕(東京都立大学南西諸島研究委員会編) (1965) 平凡社刊

**沖繩の固有宗教研究の主流と二、三の問題点について** (與那国 暹)

〔琉球大学文理学部紀要〕社会編 9~11号(1965~1967)

**琉球・奄美の社会人類学** (村武精一)

〔日本民族学の回顧と展望〕(日本民族学会編) (1966) 日本民族学協会刊 → 〔家族の社会人類学〕(村武精一著) (1973) 弘文堂刊

**民間信仰** (大藤時彦)

〔日本民族学の回顧と展望〕(日本民族学会編) (1966) 日本民族学協会刊

**日本・沖繩と周辺地域との比較研究** (大林太良)

〔日本民族学の回顧と展望〕(日本民族学会編) (1966) 日本民族学協会刊

- 日・琉族制研究における構造論—柳田民俗学と社会人類学（村武精一）  
〔日本民俗学会報〕54号（1967）→〔家族の社会人類学〕（村武精一著）（1973）弘文堂刊
- 法律学における研究動向（江守五夫）  
〔村落社会研究〕第3集（1967）塙書房刊
- Some Problems of Folk-Religion in the Southwest Island (Ryukyu). Folk Religion and the Worldview  
in the Southwestern Pacific. (Matsumoto, Nobuhiro and Toichi, Mabuchi)  
〔The Keio Institute of Cultural and Linguistic Studies〕Keio University, Tokyo (1968)
- 伊波先生と民俗学（源 武雄）  
〔琉球新報〕1968年8月12日
- 民族学・民俗学における研究動向（村武精一）  
〔村落社会研究〕第4集（1968）塙書房刊
- 社会人類学における研究動向（蒲生正男）  
〔村落社会研究〕第5集（1969）塙書房刊
- 喜舎場永珣先生と八重山古謡の研究（牧野 清）  
〔沖縄タイムス〕1969年8月24日
- 沖縄の民俗調査—その若干の考察（饒平名健爾）  
〔琉大史学〕1号（1969）→〔現代日本民俗学〕2巻（野口武徳等編）（1975）三一書房刊
- 座談会 民俗学からみた沖縄の文化（和歌森太郎 源 武雄 川平朝申 宮城鷹夫）  
〔沖縄タイムス〕1970年4月24日～5月2日
- 日・琉祖先祭祀からみた系譜関係の塑性性（村武精一）  
〔民族学からみた日本—岡正雄教授古稀記念論文集〕（1970）河出書房新社刊→〔家族の社会人類学〕  
（村武精一著）（1973）弘文堂刊
- 沖縄民俗の見方（和歌森太郎）  
〔文化評論〕110号（1970）
- 沖縄民俗学研究の問題点（和歌森太郎）  
〔民俗学評論〕5号（1970）
- 南島論—家族・親族・国家の論理（吉本隆明）  
〔展望〕144号（1970）
- 沖縄における民俗調査・研究の現状（平敷令治）  
〔沖縄歴史研究〕9号（1971）
- 沖縄学における宗教研究と日琉同祖論（與那国 暹）  
〔沖縄経験〕1号（1971）
- 民俗編I「解説」（大藤時彦 小川 徹）  
〔沖縄文化論叢〕2巻 民俗編I（1971）平凡社刊
- 民俗編II「解説」（馬淵東一 小川 徹）  
〔沖縄文化論叢〕3巻 民俗編II（1971）平凡社刊
- 琉球民俗文化解説のために（村武精一）  
〔沖縄タイムス〕1971年11月6日～9日→〔叢書わが沖縄〕5巻 沖縄学の課題（谷川健一編）（1972）  
木耳社刊→〔神・共同体・豊穡—沖縄民俗論〕（村武精一著）（1975）未来社刊
- 宗教史における沖縄研究（宮田 登）  
〔歴史学研究〕378号（1971）
- 沖縄民族文化のみかた（比嘉政夫）  
〔人類科学〕24号（1972）

**宮古島民族文化研究の課題**（岡本恵昭）

〔叢書わが沖縄〕5巻 沖縄学の課題（谷川健一編）（1972）木耳社刊

**沖縄の民俗芸能の分布とその分類**（三隅治雄）

〔人類科学〕24号（1972）→〔芸能史の民俗的研究〕（三隅治雄著）（1976）東京堂刊

**沖縄の民俗芸能の分類試論**（宜保栄治郎）

〔琉球の文化〕1号（1972）

**喜舎場永珣先生を偲ぶ—その人物と業績**（牧野 清）

〔沖縄タイムス〕1972年4月11日～13日→〔日本民俗学〕83号（1972）→〔伝統と現代〕25号（1974）

**座談会 柳田学と現代**（神島二郎 益田勝実 川村二郎）

〔沖縄タイムス〕1972年10月27日～29日

**琉球宮古諸島の祭祀構造研究の問題点**（牛島 巖）

〔沖縄文化論叢〕3巻 民俗編Ⅱ（馬淵東一 小川 徹編）（1972）平凡社刊

**池間島研究略史**（野口武徳）

〔沖縄池間島民俗誌〕（野口武徳著）（1972）未来社刊

**沖縄人による沖縄研究の提案**（野口武徳）

〔叢書わが沖縄〕5巻 沖縄学の課題（谷川健一編）（1972）木耳社刊

**古代研究と沖縄学**（倉塚暉子）

〔叢書わが沖縄〕5巻 沖縄学の課題（谷川健一編）（1972）木耳社刊

**沖縄民俗文化をどうとらえるか**（村武精一）

〔講演記録—日本地域開発センター・琉球政府主催「シンポジウム・新しい沖縄を求めて」（1971年6月）→〔地域開発〕（1971年10月）→〔現代のエスプリ〕72号（1973）→〔神・共同体・豊穰—沖縄民俗論〕（村武精一著）（1975）未来社刊

**私の家族研究誌ノート**（村武精一）

〔家族の社会人類学〕（村武精一著）（1973）弘文堂刊

**二つの民俗学—折口と柳田の出会いと視点と方法**（伊藤幹治）

〔現代詩手帖〕16巻6号（1973）

**社会人類学・民俗学における村落社会研究の動向**（村武精一）

〔村落社会研究〕第9集（1973）塙書房刊

**沖縄の親族研究—その方法論の検討**（渡辺欣雄）

〔南島史学〕2号（1973）6号（1975）10号（1977）

**沖縄文化研究の成果**（宮良高弘）

〔現代のエスプリ〕72号（1973）

**「海南小記」前後**（野口武徳）

〔未来〕98号～114号（1974～1976）→〔沖縄研究の歳月〕（野口武徳著）（1980）東海大学出版会刊

**社会人類学・民俗学における村落社会研究—奄美・沖縄地域を中心に**（須藤健一）

〔村落社会研究〕第10集（1974）塙書房刊

**柳田民俗学と沖縄研究の周辺**（酒井卯作）

〔季刊柳田国男研究〕7号（1974）白鯨社刊

**沖縄研究入門講座—民族学**（比嘉政夫）

〔沖縄思潮〕2号（1974）

**沖縄芸能史研究の動向**

〔沖縄タイムス〕1974年4月5日

〔門中〕研究をめぐる諸問題—小川 徹氏の論考を中心に（比嘉政夫）

- 〔沖縄文化研究〕1号(法政大学沖縄文化研究所編)(1974) 法政大学出版局刊
- 民俗学と民族学** 柳田国男生誕百年記念国際シンポジウムによせて(馬淵東一)  
〔馬淵東一著作集〕1巻(1974)社会思想社刊→〔社会人類学年報〕1巻(東京都立大学社会人類学会編)  
(1975) 弘文堂刊
- 学術(沖縄研究)民族学・民俗学**(平敷令治)  
〔沖縄県史〕5巻 各論編4 文化1(1975)(沖縄県教育委員会編)
- 琉球民俗文化研究の諸問題**(村武精一)  
〔沖縄研究—現状と課題〕沖縄タイムス1973年3月2日～3日→〔神・共同体・豊穰—沖縄民俗論〕(村武精一著)(1975) 未来社刊
- 琉球民俗文化の比較論的位置—周辺諸文化との比較を通して感じたこと**(村武精一)  
〔新沖縄文学〕29号(1975)
- 社会学における沖縄研究—その成果と課題**(松原治郎)  
〔人類科学〕27号(1975)
- 東南アジアの旅から—比較民俗論の視点**(比嘉政夫)  
〔沖縄タイムス〕1975年11月11日～21日
- 比較民俗学の課題と沖縄**(桜井徳太郎)  
〔沖縄タイムス〕1975年12月27日
- 喜舎場永珣の人と業績**(宮良安彦)  
〔新沖縄文学〕33号(1976)
- 沖縄歌謡史研究の足跡—世礼国男を中心に**(竹内重雄)  
〔沖縄文化〕47号(1976)
- 沖縄を舞台とした民俗学と民族学—柳田・馬淵・村武**(野口武徳)  
〔社会人類学年報〕2巻(東京都立大学社会人類学会編)(1976) 弘文堂刊
- 沖縄民話調査の展望**(遠藤庄治)  
〔沖縄タイムス〕1976年3月26日
- 沖縄の民俗芸能の特質**(当間一郎)  
〔文学〕45巻3号(1977)
- 座談会 日本民族とその周辺**(金関丈夫 村山七郎 国分直一)  
〔えとのす〕9号(1978)
- 民族学からみた沖縄研究の概観とその展望**(高桑史子)  
〔南島史学〕11号(1978)
- 対談 南島研究の回顧と展望**(関 敬吾 窪 徳忠)  
〔南島史学〕12号(1978)
- シンポジウム 南島の昔話—採訪調査の体験を通して**(遠藤庄治 下野敏見 岩瀬 博 福田 晃) 庄  
〔南島の昔話—昔話研究と資料〕7号(昔話研究懇談会編)(1979)
- 沖縄の民俗研究史**(宮良高弘)  
〔日本民俗学のエッセンス〕(瀬川清子 植松明石編)(1979) べりかん社刊

次回は〈言語・文学・その他〉を掲載します。

(整理係長)

## George H. Kerr博士より寄贈図書

1980年9月 G.H.Kerr博士より次のとおりマイクロフィルム2巻と図書4点の寄贈がありました。このうち①のマイクロフィルムについて、Kerr氏が編集した内容細目を転載します。

1. Kerr, G. H. : The Ryukyus European–Language Bibliography Project, 44 items reproduced for U. C. (Berkley) History Seminar, Spring, 1954.
2. Clifford, H. J. : The Claims of Loochoo on British Liberality. 5th ed. 1846. 257p.
3. Kerr, G. H. : Ryukyu Bibliography ; A Reference List for Students of Ryukyuan History and General Affairs. 1952.
4. Kerr, G. H. : The Lineage of Buddhism. 1961. 1 sheet.
5. Kerr, G. H. : The Lineage of Japanese Buddhist Sects. 1936. 1 sheet.
6. Nakamura, Hiroshi: Old Chinese World Maps Preserved by the Koreans. 21p.

### Kerr, G. H. : The Ryukyus European–Language Bibliography Project. (Contents of the Film Roll.)

1. Allen, Herbert G. : “The Lewchew Islands.” China Review (Hongkong). Vol VIII(1879) p. 140–143.
2. “Amicus” pseud. : “Chinese Account of the Loo–Choo.” Indo–Chinese Gleaner (Malacca) No7 (1919) p. 1–4.
3. Beasley, W.G. : Great Britain and the Opening of Japan 1834–1858. London (1851) p. 26: 77–82 (Copyright).
4. Benyowsky, Mauritius Augustus, Cont de: Memoirs and Travels [in Ryukyu 1771.] London (1904) p. 376–393.
5. 「British and Foreign State Papers–1873–1874」 [Letter from Japanes Foreign Minister to Italian Charge at Tokyo, 1873.]
6. Cocks, Richard : Diary of Richard Cocks [1615] Hakluyt Society, London Vol. 1 p. 7, 11, 49; Vol. II p. 166–167.
7. Eddis, : “Short Visit to Loo–Choo in November, 1818” Indo–Chinese Cleaner No7 (1819) p. 1–4.
8. Hayashi [Rin] Shihei: San Kokf Tsou Ran To Sets, ou apercu général des Trois Royaumes. French trans. by J. Klapproth Paris and London (1832) English trans. by E. B. H. Ord.
9. Hummel, Arthur ed. : Eminent Chinese of the Ching Period–(Exerpts) 2 vols. Washington, D. C.
10. Japan Weekly Mail: Excerpts from files of 1875 to 1879.
11. Kuno, Y. S., trans. : (letter to Hideyoshi from the King of Liu Chiu and Hideyosh reply). Japanese Expansion on the Asiatic Continent. Vol. I, p. 305–307 Berkeley (1937).
12. McCauley, Edward Yorke : With Perry in Japan – The Diary of Edward Yorke McCauley (edited by Allan B. Cole) Princeton (1942) Copyright. p. 65–72.
13. Mendes Pinto : Excerpts from Maurice Collis' The Grand Peregrination a narrative of the adventures of Fernao Mendes Pinto, wrecked on Okinawa ca. 1542. London (1951) p. 158–165.
14. Mendes pinto: Excerpt from Henry Cogan's translation of The Voyages and Adventures of Fernand Mendes Pinto. London (1947) p. 220–223.
15. Morse, Hosea Ballou : International Relations of the Chinese Empire (Excerpts) Vol II. “The Period of Submission, 1861–1893” London (1918)
16. Saint–Denys, Marquis Hervey de : “Sur Formose et sur les îles appeles en Chinois Lieou–Kieou” (Digest by E. Ord) Journal Asiatique 7th ser. Vol. III–IV (1874) p. 105–121.
17. Smith, George: Ten Weeks in Japan. London (1861) p. 100–101; 334–353.
18. Tsunoda, Ryusaku and L. C. Goodrich: Japan in the Chinese Dynastic Histories. Pasadena (1951) Copyright. p. 116, 123–4, 140–141.
19. U. S. Senate, 33rd Congress, Ex. Doc. #34. Correspondence concerning the Perry Expedition. Excerpts.
20. Wallach, Sydney ed. : Narrative of the Expedition of an American Squadron to the China Seas and Japan, etc. New York (1952) Copyright. p. 14–42.
21. Williams, S. Wells : “Notices of Fusang and Other Countries Lying East of China, Given in the Antiquarian Researches of Ma Twan–Lin” / d. ca. 1325 / Journal of the American Oriental Society (New York) Vol. XI. (1880) p. 90–96.

## Microfilm File, Part II

22. Brinkley, Capt. F.: "The Story of the Riukiu (Loochoo) Complication." Chrysanthemum and Phoenix Vol. III pt. 3 (1883) p. 122-153. (Extensive documeneation)
23. Bull, Earl: "The Trial of the Trail-Blazer, Bettleheim." Japan Evangelist Vol. XXXII, No 5. p. 153-159.
24. Bull, Earl: "Bettleheim as Physician, Jew, Layman, and Transactor." Japan Evangelist Vol. XXXII, No 5 p. 153-159.
25. Cordier, Henri: "Les Francais aux îles Lieu-K'ieou." Melanges d'histoire et de geographie orientales, Paris (1914) Vol. I p. 296-317.
26. Forcade, Theodore Augustin: "Lettre à M. Libois". Annales de la Propagation de la Foi. (Lyons) Vol. XVIII (1886) p. 363-383.
27. Furet, Auguste Theodore: "Lettres à M. Leon de Rosny sur l'archipel Japonais". Paris (1860) (irregular paging. 37 pages re. Ryukyu.)
28. Gaubil, Pere: Lettres Édifiantes et Curieuses. Paris. (1781) Vol. XXIII p. 182-245.
29. Great Britain; Foreign Office: General Correspondence Relating to China, London (1840) Vol. II p. 209-212; 223-226.
30. Gubbins, John A.: "Notes Regarding the Principality of Loochoo." Chrysanthemum (Yokohama) Vol. I (1881) p. 301-302.  
Attached article "Spelling of Riu-Kiu" by "Swastica," p. 132-134.
31. Gutzlaff, Charles: The Journal of Two Voyages Along the Coast of China in 1831 and 1832..... with Notices of Siam, Corea and the Loochoo Islands. New York (1833) p. 288-298.
32. Hall, Basil: Narrative of a Voage to Java, China and the Great Loochoo Island, (etc.). London (1840 ed.) (passages relating to conversation with Napoleon at St. Helena, concerning Ryukyu.)
33. Halloran, Alfred Laurence: Eight Months' Journal Kept on Board of Her Majesty's Ships of War During Visits to Loochoo, Japan and Pootoo..... London (1859) p.16-35.
34. Kaempfer, Englebert: An Account of Japan. / in 1690, 1692 / Abridged ed. London (1853) p. 2-3.
35. Klaproth, J.: "Sprachproben von Lieu-Kieu." Archiv fur Asiatische Literatur, Geschite und Sprachkunde. St. Petersburg (1810) p. 151-158.
36. Kloeden, G. A. von: "Die Rieu-Kiu Inseln". Peterman's Geographische Mittheilungen (Gotha). Vol. XXVI (1880) p. 447-451.
37. Kublin, Hyman: "The Attitude of China during the Liu-ch'iu Controversy, 1871-1881." Pacific Historical Review (Glendale) (Copyright) Vol. XVIII No 2 (1949) p. 213-231.
38. Lindsay, H. H. and Gutzlaff: Reports of Proceedings on a Voyage to the Northern Ports of China in the Ship Lord Amherst... London (1883) p. 260-267; 295-296.
39. Loochoo Naval Mission, pub. The Claims of British Liberality. 5th ed. London 257p. Title page dated 1846, some articles dated 1850. Includes 19 articles, letters, reports, etc., concerned chiefly with Bettleheim's activities, and edited for the most part by H. I. Clifford.
40. Schlegel, Georg: "Problems geographiques. Les peuples etrangeres chez les historiens Chinois. XIX. Lieou-Kieou Kouo. Le pays de Lieoukieou." T'oung Pao (Leiden) Vol. VI. No 2 (1895) p. 2165 - 2215.
41. Schwartz, Henry B.: The Loochoo Islands. A Chapter in Missionary History. Tokyo (ca. 1907) 20p.
42. "Swastica" pseud.: See above, under Gubbins.
43. Williams, S. Wells: "Journal of a Mission to Lewchew in 1801." Journal North China Branch, Royal Asiatic Society (Shanghai). New Series Vol. VI (1869-1870) p. 149-171.
44. Williams, S. Wells: "Political Intercourse Between China and Lewchew." Journal North China Branch, Royal Asiatic Society (Schanghai). New Series Vol. III (1866) p. 81-93.



## “新図書館への移転計画”

- 1 移転開始は昭和56年7月1日（水）とする。
- 2 閉館期間は昭和56年7月1日（水）から昭和56年8月31日（月）までの2ヶ月間とする。
- 3 開館予定は9月1日（火）とし、開架資料が利用できるよう図書館では努力する。

新図書館の建築工事は昭和55年11月5日に始まり、昭和56年6月30日（火）の竣工予定だが総面積は現在のおよそ2倍の5,439.80㎡(3階建, アルファベットのHを横にしたようなもの)になっている。

1階は管理棟で、2～3階がサービス棟になる。2階は図書の貸出し返本と情報検索その他参考業務が行なわれ、3階では雑誌、紀要、新聞類が利用されることになる。

新図書館の特徴は新しく気軽に読書出来るブラウジングルームを設けたほか開架図書（よく利用される図書）と稀用図書（あまり利用されない図書）に分かれており、稀用書庫は5層となっている。

また玄関は現在同様階段をあがって貸出し部門に直接導入されるよう建物中央2階に設置される。

利用については移転の期間中御迷惑をおかけすることになるが、冊数、期間とも従来の長期貸出制度を更に拡大するよう検討中である。

なお稀用図書の利用については整理整頓のため1年以上は要するものと思われるのでさしあたっては開架図書を利用してもらいたい。

移転は色々の御不便がつきものであるとはいえ図書館では最少限にとどめるべく最大の努力を払うつもりである。については利用者の御協力と御理解をお願いするものである。

以上のほか図書館にかかわる移転情報その他業務についてはそのつど“びぶりお”や“学報”“学生部だより”掲示、文書などでお知らせします。

（附属図書館）

## 貸出図書の返本方について

### 学生利用者へ

昭和56年3月に卒業（修了）する学生、聴講生等で図書館より資料を借用している方はすべて期限内に返本して下さい。返本が出来ますと諸証明の発行が停止され、本人又は保証人宛に返本請求を行います。

### 教職員利用者へ

昭和55学年度を以って退職、転任等により本学より異動される方で図書館資料を借用されている方は3月15日までに全て返本して下さい。

又、研究用図書を引継ぎなさる方は図書の返本確認を行いますので必ず返本していただき、改めて借用手続き（名義替）をとって下さい。名義の書替なしに同僚や他人に又貸しされた場合等も、あくまで借用名義人の責任ですので御注意下さい。

なお、期限内に返本されないと他の利用者に迷惑をかけるのは勿論のこと、図書館運営にも多大な支障をきたしますので充分ご留意下さい。

貸出し返本についてのお問い合わせは閲覧係（内線334）までお願いします。

（閲覧係）

## 新 着 図 書

- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>巨大学術情報システム 北川敏夫, 014-K i63<br/>島内武彦共編 東京大学出版会<br/>1975</p> <p>読書人の周辺 紀田順一郎 実業日 019-K i12<br/>本社 1979</p> <p>青春の読書 吉村公三郎 玉川大学 019.1-Y 91<br/>出版部 1978</p> <p>児童読物よ, よみがえれ 山中恒 019.5-Y 34<br/>品文社 1978</p> <p>世界の奇書101冊 自由国民社 020.4-A 38<br/>1978</p> <p>ギネスブック 世界記録事典 1979 049.1-Mc24<br/>ノリス・マクワーター編 青木栄<br/>一訳 講談社 1978</p> <p>論理の哲学 山口論助 麓山房 116-Y 24<br/>1979</p> <p>哲学と精密科学 エルンスト・カツ 134.834-C 25<br/>シーラー著 大庭健訳 紀伊国屋<br/>書店 1978</p> <p>生き甲斐・死に甲斐 孝橋正一 ミ 180.4-Ko27<br/>ネルヴァ書房 1978</p> <p>日本先史文化入門—人と自然と日本 210.02-F 56<br/>と 藤則雄 雄山閣出版 1979</p> <p>フィリピン民衆の歴史1—2 レナ 224.8-C 86<br/>トニコスタンティノー 井村文<br/>化事業社 1978</p> <p>ハンガリー現代史 鹿島正裕 亜紀 234.7-Ka76<br/>書房 1979</p> <p>ミイラーミイラ考古学入門— アン 242-L 51<br/>ジュピェール・ルカ著 羽林泰<br/>訳 佑学社 1978</p> <p>社会科学の方法と歴史 行沢健三等 301-Y 97<br/>編 ミネルヴァ書房 1978</p> <p>ソ連見たまま住んだまま 田村正太 302.38-T a82<br/>郎 中央公論事業出版 1978</p> <p>暮しのための法律 1980 加藤一郎 R 320-Ka86<br/>遠藤浩編 第一法規出版 1979</p> <p>経営経済学の基本問題 儀我壯一郎 335.1-G 43<br/>編著 ミネルヴァ書房 1979</p> <p>これから有望な新資格の取り方一切 335.96-S h36<br/>島田隆司 日本実業出版社 1980</p> | <p>.....</p> | <p>不思議の国ニッポン—在日フランス 36.16-B 64<br/>人の眼 続統 ポール・ボネ ダ<br/>イヤモンド社 1978</p> <p>誰も気がつかない就職選びの損得 366.4-Se27<br/>関口多景士 講談社 1979</p> <p>人間にくずはない 金沢嘉市 あす 370.4-Ka48<br/>なる書房 [N・D・]</p> <p>僕・学校へ行くんやで—与謝の海養 378-A 53<br/>護学校の実践— 青木嗣夫編著</p> <p>ぼくらはみんな生きている 写真: 378-Ka97<br/>川島浩 文: 青木嗣夫 あゆみ出<br/>版 1978</p> <p>否定の哲学「新科学精神の哲学」試 401-B 13<br/>論 バシュラール著 中村雄二郎,<br/>遠山博雄訳 白水社 1978</p> <p>科学とは何か ノーマン・キャンベ 401-C 14<br/>ル著 森一夫訳 法律文化社<br/>1979</p> <p>人間のゆくえ 対談 渡辺格, 野間 404-W 46<br/>宏著 新泉社 1979</p> <p>現代物理学の意味 V. F. ワイス 420-W 55<br/>コップ著 藤田純一, 吉田思郎訳<br/>講談社 1979</p> <p>ノーベル賞講演物理学1~10 ノー 420.4-N 91<br/>ベル財団著 中村誠太郎, 小沼通<br/>二編 講談社 1979</p> <p>英語化学論文の書き方 平山健三ほ 430.7-H 69<br/>か共著 丸善 1979</p> <p>入門物理化学 白井道雄 実教出版 431-S h81<br/>1978</p> <p>宇宙の果て—激突する宇宙論— チ 440.4-F 22<br/>モシイ・フェリス著 斉田博訳<br/>地人書館 1979</p> <p>一般地学 紺野義夫他著 共立出版 450-Ka74<br/>1979</p> <p>人間・地球・地球学 竹内均 文芸 450-T a67<br/>春秋 1978</p> <p>新お天気百話 高橋浩一郎 朝日新 451.04-T a33<br/>聞社 1979</p> <p>百万人の天気図 宮内駿一, 田島成 451.29-Mi86<br/>昌 成山堂書店 1979</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

天気図と気象 熊沢源右衛門 新訂 成山堂書店 1978	451.8-Ku36	と生活社 1979	
ヒトの生物学—人間としての生命を 考える—青木清他著 講談社 1979	460-A53	電気工事士教科書 日本電気協会 1979	544.07-D58
フレッシュマンのための生化学 東 久保勝彦 広川書店 1979	464-To35	資源戦争—石油と食糧— 唯是康彦 編著 家の光協会 1979	568.9-Y97
生命のらせん階段—分子生物学への 道— 渡辺格 文芸春秋 1979	464-W46	スペイン料理—風土と調理法のすべ て— ネストール・ルハーン, フ ァン・ペルーチェ共著 坂本修, 南由利子訳 三洋出版貿易 1976	596.3-L96
生命の灯 ルネ・デュボス著 長野 敬他訳 思索社 1978	466.1-D93	文化の転回 守田志郎 朝日新聞社 1978	610.4-Mo66
生命の起源 原田馨 東京大学出版 会 1979	466.1-H32	セールスとは何か—自信と生きがい を探る— 稚名啓一 文教書院 1978	673.3-Sh32
ヒトが人間になるとき ドビーニン, シェフチェンコ著 福渡淑子訳 講談社 1979	467-D93	テレビッ子—この新しい世代とつき 合うために— 読売新聞社婦人部 文化出版局 1978	699.9-Y81
神を演ずる—遺伝子工学と生命の操 作 J・グッドフィールド著 中 村桂子訳 岩波書店 1979	467.7-G65	感動の世界 市川喜久称 ラティス 1978	778.04-I14
組換えDNA秘話 ジョン・レア著 新井俊彦訳 共立出版 1979	467.7-L48	かくし芸 成田雅水 高橋書店 〔N. D.〕	798-N52
水と生命と人間 チャールズ・フレ デリック・ヒックリング著 中西 正己他訳 紀伊国屋書店 1978	468-H54	ふと読みたくなる100の話材 福田 健, 森田金吾編 文教書院 1978	809-F74
動物101話 川崎勉 内田老鶴圃新 社 1979	480.49-Ka97	日本語起源論—基層としての南島語 の位置づけ— 黒崎久 牧野出版 1977	810.2-Ku76
がん細胞—その奇妙なふるまい—岡 田節人 東京大学出版会 1979	481.5-038	日本語の祖先 安田徳太郎 大陸書 房 1976	810.2-Y62
鳥と人間 W. H. ハドスン著 小 林歳雄訳 講談社 1978	488-H98	アイヌ語は生きている ポン・フチ 新泉社 1978	819-P79
もう一人のわからんちん—心理学者 わが子とチンパンジーを育てる— 岡田美年子 プレーン出版 1979	489.9-045	中国語の入門 藤堂明保他著 朝日 出版社 1978	820.7-To18
人間とはなにか?—その心とからだ— 本明寛他著 グロビュー社 1978	490-Mo82	中国語発音の基礎 伊藤敬一 一水 社 1976	821.1-I89
ガンとの対決 佐藤隆一 旺史社 1978	491.615-Sa85	漢文に強くなる本 小山喜平 エー ル出版社 〔N. D.〕	827.5-Ko97
公害から環境問題へ—自然と人間の 回復—柴田徳衛他著 東海大学出 版会 1976	519.5-Sh18	東南アジア語の話 松山納 大学書 林 1978	829-Ma91
住みよい住宅実例集—自分でできる 見積書つき— 津田一郎編 主婦	527-Ts34	やさしい韓国語の作文 金忠植 大 学書林 1978	829.1-Ki41
		タイ語の基礎1,500語 松山納, 坂 本比奈子共編 大学書林 1978	829.3-Ma91
		ベトナム語基礎1,500語 竹内与之 829.39-Ta67	829.39-Ta67

助, 日隅真澄共編 大学書林 1978		初級クラスのドイツ語 石渡ほか著 郁文堂 1978	840.7-I 82
図解インドネシア語会話 中西能雄 編 海文堂 1979	829.4-N 38	やさしいドイツ語 小塩節 日本放 送協会出版 1979	840.7-O 77
モンゴル語の話 小沢重男 大学書 林 1978	829.6-O 97	初めてのフランス語 林田遼右 白 水社 1978	850.7-H 48
アラビア語会話 岡野利雄 豊文社 1978	829.76-O 45	フランス語学入門 島岡茂 大学書 林 1978	850.7-Sh 43
やさしいペルシャ語会話 岡田恵美 子 泰流社 1978	829.9-O 38	旅行者のためのフランス語会話 千 葉重美 ナツメ社 1976	857.8-C 42
英語からドイツ語へ 藤田五郎 第 三書房 1978	840-F 67	初級スペイン語 中山直次 白水社 1978	860-N 45

## 図書館事情

11月5日(水) 千原キャンパスに図書館建築着工

11月22日(土) 図書係長野原敏弘, 受入主任 仲西盛秀 20年勤続表彰式で表彰

11月26日(水) ~28日(金)

東大総務課長 岩井昭三氏 国立大学図書館協議会総会打合せのため来島

12月13日(土) 忘年会 於南西ホテル 18:00 参加者46名

[館内研修会]

12月24日(水) 於図書館 参加者45人

13:30-15:30 世紀の動乱他 (ビデオ観覧)

16:00-17:00 講演会 講師 真栄城朝潤事務局長 琉球大学行政の変遷について

[第131回図書館運営委員会要録]

○日時: 1月20日(火) 9:00~10:30

○場所: 会議室 (プレハブ2階)

○議題:

- (1) 琉球大学附属図書館アメリカ研究図書選択委員の任命について
- (2) 図書館の移転について

○報告事項:

- (1) 国連委託図書館について
- (2) 看護系学科の視察委員の視察について
- (3) 日本国際医療団よりの雑誌寄贈について
- (4) 東大からの医学雑誌の寄贈について

[研修会]

第2回学内監督者研修会 (JST標準課程)

1月20日(火)-23日(金)(4日間) 於風樹館 玉那覇文彦総務係長, 野原敏弘図書係長参加

琉球大学附属図書館報 “びぶりお” 第14巻 第1号 [通巻第49号]  
 昭和56年2月10日 発行人 平良恵仁 沖縄県那覇市当蔵町3丁目1番地  
 電話 87-0101 (内線338)